

## 平成28年度 第2回学校評議員会（学校関係者評価委員会） 記録

1 日 時 平成29年2月24日（金） 午前9時30分から11時30分

2 出席者 評議員 河内 園子 様 【静岡市静岡手をつなぐ育成会顧問】  
林 のぶ 様 【国際女性教育振興会静岡県支部長】  
水野 昭彦 様 【安東地区社会福祉推進協議会 副会長】  
本校PTA会長 波平美也子 様  
校長、副校長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、教務主任

### 3 内 容

- (1) 校長あいさつ
- (2) 平成28年度の学校評価について
- (3) 授業参観
- (4) 平成29年度の取組について
- (5) 質問・意見・協議等

#### <次年度の学校経営について>

○次年度の重点である「読書活動の充実」は是非取り組んでほしい。本県は「読書県しずおか」を提唱している。読書イベントや推薦図書などもある。ガイドブック「本とともだち」なども発行されているので、是非活用し、児童生徒にたくさん読んでもらいたい。チェックシートなどもあるので、図書室の整備や冊数把握、購入の際に参考になる。

○親が子に本を読み聞かせる行為が大事。心が豊かになる。スキンシップやコミュニケーションにもなる。「読み聞かせ」ではなく「読み語り」として推奨したい。

○学校図書を是非進めてもらいたい。こんな時代（ICT）だからこそ是非大切にしたい。

○自分で紙を触って…、そうした中でたくさんの感覚が育つ。「障害があるから…なかなか難しい…」とは思わずに取り組んでほしい。今の保護者の方にも是非伝えて欲しい。

○近くに中央図書館もあるので是非利用してほしい。昔（卒業生）は図書カードを一人一枚作って借りに行った。

○司書教諭の先生がいたら、その人を中心に取り組んでもよいし、部講師など地域を含めた人材活用を進めてもよい。

→本校小学部でも読み聞かせボランティアの方に来ていただいて、本を読んでもらっています。

OPTAとしても、読み聞かせや子どもが読書をする機会が増えるよう保護者に伝えていきたい。PTA活動としても「読み聞かせボランティア」などを入れていってもよいのではと思う。

○保護者は、就労後も視野に入れた情報収集をしていく必要がある。過去に、移行支援や就労A型、B型などを理解せずに就労させていた保護者がいて驚いたことがある。講演を聞くだけでなく、積極的に話し合う機会をもってほしい。

○PTA活動においても、進路対策委員会を中心に、昨年度から卒業生本人やその保護者に話を聞く機会を設けている。いろいろ質問できるので、とても良い機会だと考えている。今後、参加者を増やしたり内容をより踏み込んだものにしたりしながら継続的に取り組んでいきたい。

○知的障害のある児童生徒の授業や学習をじっくり見て、非常に楽しかった。見通しをもった（もたせた）指導や対応に子どもたちが生き生き活動していた。次の自分のステップを見て活動している。

○「本校教育活動の発信」の機会として、静岡市の作品展などがあればそちらに出してみてもどうか。市からの情報が来ないのかもしれないが、教育会館の1Fのギャラリースペースも依頼によっては活用できるかもしれない。

○市役所のギャラリーなどは優先的に貸してくれるかもしれない。個人や小さい団体ではなかなか貸してくれないが、学校ならばできるのではないか。

○学習の中で選挙活動への取組をしてほしい。今朝の新聞に東京都の学校が知的障害者の選挙（投票の仕方）を模擬体験として学習している様子が記載されていた。選挙権が18歳に引き下げられた今だからこそ、卒業後、社会に出る上で大事な学習である。

多くの貴重な御意見、御提言をありがとうございました。本日いただいたお話を次年度の学校運営に活かしていきたいと思います。